

住民と対話し意見を重視する議会に

広島県町議会議員研修会

8月29日、「広島県町議会議員研修会」が開催されました。これからの議会は住民との対話をより大切にし、住民の意見を重視しなければならないことを再確認し、今後の議会運営に反映してまいります。

○「地方議会が元気になるために」

地方自治、地方政治を取材する中で、地方の取り組みが日本を変える原動力になると感じる。地方議会活性化のための「議員の役割」として、

- 1 議員が議場の外で住民の声を聴き、議事に反映させる。
- 2 自助、公助、共助の精神の元、地域住民の力も借り、政策に取り入れる。



講師：ジャーナリスト 梅本 清一 氏

○「人口減社会に期待される議会の役割」

人口減少により、生活利便性が低下し地域の魅力も低下していく中で、持続可能なまちづくりの推進のための「議会の役割」として、

- 1 人口減少社会の厳しい現実を直視し課題を探る。
- 2 様々な施設、サービス等のコンパクト化、リニューアル等に対し、住民と徹底した議論を行い、コミュニケーションを図り推進する。



講師：弁護士・早稲田大学 大学院元教授 片木 淳 氏

手に取られ読まれる議会だよりを

議会広報特別委員会

今年度の議員改選にともない、広報特別委員の半数が刷新されたことなどから、9月25日、4年ぶりに全国町村議会議長会の広報研修会（東京 砂防会館）へ参加しました。

北信越、東海地域以西の広報担当者約600人が、標記のような「議会だよりの作成」をねらいとした研修を受けました。

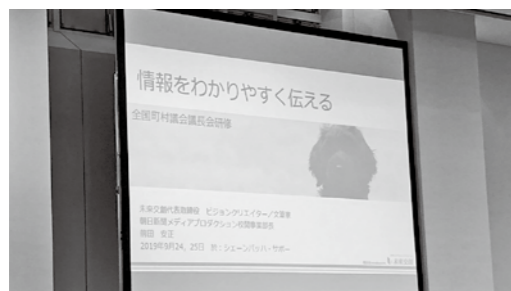
内容は、すぐに対応できそうなことから、検討を要することなどまで、多様でした。

現在の本町の議会だよりも、4年前のこの全国研修会や毎年の近隣市町への研修、そして情報交換の賜物と考えています。

今後も、町民の皆様に読んでいただける議会だよりの作成を目指します。ご期待ください。

【研修内容】

- 読者目線で親切的な広報紙を作るには
講師：「月刊総務」編集長 豊田健一 氏
- 情報をわかりやすく伝える
講師：朝日新聞メディアプロダクション 校閲事業部長 前田安正 氏
- 町村議会広報コンクール 上位入賞団体の評価ポイント
講師：エディター 吉村 潔 氏



▲前田氏から、読む人が理解できる情報の伝え方について講義を受けました。

Q 〈福垣内 邦治 議員〉

情報化・IT化への対策は

A 〈民生部長〉

推進に向けた対応については、慎重に検討する。



引き続き外部講師での対応を考えている。

〔A2〕

若手職員の「ITアドバイザー」育成を進めてはどうか。

〔Q2〕

公民館の事業として、海田警察と、詐欺被害防止の呼びかけと初歩的な講習会を行っている。

〔A1〕

10月増税時のキャッシュレス推進に対しては。

〔Q1〕

業務の効率化のためにITをどの程度利用されているか。

〔Q3〕

現在、業務の効率化を目的とした利用はしていない。職員間の連絡に一部LINEを利用している。

〔A3〕



〔Q4〕

警報発令時にも、町民へのLINE等の一斉送信の方がはるかに効率よく、大勢の方に確実に周知出来ると思うのだが。

〔A4〕

多くの方々に登録してもらう必要がある。防災行政無線の更新において、新たな情報発信の方法を検討している。一つの課題として検討を進めている。

農業

Q 〈中島 数宜 議員〉

猪の被害対策を問う

A 〈町長〉

当初予算の増額や、有害鳥獣駆除班員を増員する等、更に被害軽減策を推進する。

平成30年度の猪捕獲数と被害状況は。

〔Q1〕

237頭を捕獲し、33万円の被害金額となっており、平成29年度よりいずれも増加傾向となっている。

〔A1〕

「有害鳥獣防除用施設設置事業補助金交付要綱」の見直しはできないか。

〔Q2〕

電気柵等の補助金は安芸郡4町同等となっており、現在のところ補助金の増額は考えていないが、現在の電気柵補助要件である延長200mの基準を見直し、10月から100mに緩和する。

〔A2〕



捕獲後の殺処分依頼方法と、処分までの保管用大型冷凍庫の導入は。

〔Q3〕

処分可能班員に応援してもらおう体制をとっている。また、処分までの腐敗防止として、大型冷凍庫の導入について、駆除班役員と協議していく。

〔A3〕

山林内にワイヤーメッシュ柵を設置し、田畑に侵入させない「モデル圃場事業」を実施できないか。

〔Q4〕

地域ぐるみで土地所有者等がまとまって山際に直線的な柵を設置し、効果を発揮している他市町の状況を調査・研究し、検討したいと考えている。

〔A4〕